

## OPENWAY FT NonStop Kernel 版 (Ver3.2 Rev60) リリースノート

OPENWAY FT NonStop Kernel 版 (Ver3.2 Rev60) では、Ver3.2Rev50 に対して以下の仕様変更・改善、および不具合対応を行っています。

### 仕様変更・改善

#### 【1】 ソケットサーバテストコマンドの追加

自マシンのソケットサーバ (uftpsockd) の動作状況を確認するため、テスト用の電文を送り、その結果を出力するコマンド “u@ftptsvr” を追加いたしました。以下はソケットサーバが正常に動作している時の出力例となります。

<出力例>

```
send: FROM TSHOST   UNIX TEST           $
recv: FROM TSHOST   UNIX TEST           00 $
snd_len = 50, rcv_len = 50
```

#### 【2】 相手ホスト名一括変換コマンドの追加

相手ホストが同一である既存の複数のファイル識別に対して相手ホスト名に変更があった場合、旧ホスト名と新ホスト名を指定することで、対象となるファイル識別全ての相手ホスト名項目を一括変換出来るコマンド “u@ftpchghst” を追加しました。尚、本コマンドは対話形式となっており、全ファイル識別の一覧および変換対象の一覧、変換後の一覧も確認できるようになっております。

#### 【3】 ホスト情報メンテナンスツール (U@ftpHOST) の改善

ホスト情報メンテナンスツール (U@ftpHOST) について以下の改善を行っております。

- ・ ホスト情報ファイルの現在値の確認をしやすくするため、選択項目に “4. 参照” を追加いたしました。
- ・ 内部処理としては現在使用していない項目「FTP クライアント」を表示しないようにしました。(尚、ホスト情報ファイルのフォーマットは変更していないため、新規登録時には項目値を ‘y’ として自動設定します。)
- ・ 「1:登録」、「2:修正」、「3:削除」の選択項目について、日本語表示項目名の統一が取れておりませんでした。尚、本改善は表示のみの修正であり、ファイル操作に関する処理など内部仕様の変更はありません。

## 【4】ファイル識別情報メンテナンスツール(u@ftpk00)の改善

ファイル識別情報ファイルの現在値の確認をしやすいするため、選択項目に“4. 参照”を追加いたしました。

## 【5】ソケットサーバ終了時電文送信元チェック

NonStop Kernel 版のソケットサーバは終了電文を受信すると自ら終了処理に入ります。この時電文の送信元を電文中の“FROM”後のホスト名から判断し、ソケットサーバが保持している自ホスト名と相違がないかチェックをするように処理を追加しました。相違がある場合には他のマシンからの終了指示と判断し、エラー(0315E)を出力して終了処理を取り消します。以下はこの時のソケットサーバが出力するエラーとなります。

uftpsockd 0315E 自ホスト以外からの終了指示のため、Socket サーバを終了できません。

## 【6】進捗監視プロセス(u@ftp998)起動時ログ出力

進捗監視プロセス起動時(s@ftp コマンド実行後)に起動したことを示すログを出力するようにいたしました。以下はログ出力例です。

```
u@ftp998(TSHOST) Start !!
```

## 【7】ステータス追越し時のエラーメッセージ変更

ステータス追越しとはOPENWAY FTの処理の流れで以下のような状況が発生した場合を指します。

- 1) 送信側でソケットクライアント(u@ftpkick)がステータス 04 時にメッセージを送信する。
- 2) 相手側でメッセージを受け取り、受信側ジョブを処理、受信完了通知を送信する。
- 3) 送信側では u@ftpkick 処理中(ステータス 04)の状態相手側からの受信完了通知メッセージを受け取る。

上記処理の流れにて 3)の時にソケットクライアント(u@ftpkick)より 0222E が出力されていましたが、0314W が発生するように変更いたしました。以下はログ出力例となります。

```
TSFID001 0314W ステータスの不一致が発生しました.: TRUE:04 FALSE:09 uftpsockd
```

## 【8】 ホスト名不一致時のワーニングメッセージ出力

ソケットサーバが正常通信の電文を受信した時、相手側にて認識している自ホスト名と自マシン側で登録してある相手のホスト名に相違があった場合、進捗ログにメッセージを出力するようにいたしました。以下は相手側の自ホスト名が“TSHOSTA”、自マシン側のファイル識別名“TSFID001”の相手ホスト名として“TSHOSTX”が登録されており、相手ホスト“TSHOSTA”から通信を受けた場合のログ出力例になります。

```
TSFID001 Warning!! Hostname different.(Kanri:TSHOSTX msg:TSHOSTA)
```

## 【9】 FTP メッセージファイル入出力異常(0125E)発生時の詳細エラーの追加

FTP 結果チェックにおいて 0125E が発生した場合、その原因が FTP メッセージファイルのファイル I/O エラーであった時は内部エラー番号等をログ出力するように処理を改善いたしました。以下はログ出力例です。

```
TSFID001 0125E FTP メッセージファイル入出力異常!! : /home/owft/src/uftpschk.msg  
seno=51 lineno=2
```

## 【10】 FTP 結果チェックの強化

FTP クライアントの標準エラー出力より、以下のメッセージが出力された場合をリトライ対象とするようにしました。

```
Connection closed by remote host.
```

## 【11】 自動リカバリ機能における異常応答時の仕様変更

自動リカバリ通信では相手ホストからの応答が異常(処理結果='99')で返された場合、前バージョンまでは相手ホストの状態が‘DEAD’のままとなっておりましたが、これを相手ホストの状態が‘ACTIVE’となるよう処理仕様の変更をしております。

処理結果='99'の応答は、通信はできている状態です。

## 【12】 ユーティリティ(圧縮・拡張・コード変換)のラージファイル対応

ユーティリティ(圧縮・拡張・コード変換)において 2GB 以上のデータファイルを扱えるように対応いたしました。

## 【13】 ソケットサーバにおける受信用バッファ初期化処理の追加

ソケットサーバが電文受信時に、受信したメッセージを格納するバッファの初期化処理を行っていませんでしたが、バッファを初期化するように処理を改善いたしました。

## 【14】 仕掛かりジョブ再起動機能の改善

Ver3.2 Rev50 で暫定リリース(非公開)した以下の機能改善についてマニュアルに掲載(公開)しました。

- ・ 仕掛りジョブの再起動機能において、以下のステータスのファイル識別に対しても、ジョブの再起動を行う機能を追加しました(ただし、本機能は `TOOLS_START_RECOVERY` 環境変数に設定をした場合に有効となります)。

従来は再起動対象でなかったステータス

受信側 07, および送信側 09

## 【15】 エラーメッセージの見直し

プログラム内で使用しているエラー番号と使用手引書に記載しているエラー番号との整合性および OPENWAY FT Windows 版のエラー番号との整合性も含め見直しを実施し、訂正しております。また、一部エラーメッセージについても実際のエラー発生要因とマッチし、わかりやすい内容に文言を改善しております。

## 不具合対応

## 【1】 文字コード変換ユーティリティ (uconvuth)

文字コード変換ユーティリティ (uconvuth) にて、WS コードから HOST コードへ変換する際、元データが以下の条件の場合に、正しく変換されない不具合を修正しました。

(条件)

- ・ 整数部がすべて 0
- ・ 小数部に数字が存在する
- ・ 小数点と小数部の最初の 0 以外の数字の間に 0 が存在する

これらの条件を全て満たすと、小数部に桁ずれが生じる不具合がありました。

## 【2】 FTP 結果チェック(u@ftpschk)出力エラーログの一部修正

0127E(FTP ログファイルオープン異常), 0128E(FTP ログファイル入出力異常)エラーについては付加情報として FTP 結果ファイル(.kekka)までのパスが出力されていましたが、FTP ログファイル(.ftpk)のパスが出力されるように修正いたしました。

## 【3】 管理ファイル名(副)作成時不備の修正

管理ファイル(副)が設定されていないファイル識別があると以下の処理で異常終了してしまう不具合に対応いたしました。

- 1) uftpscl1 (ソケットクライアント処理)
- 2) uftpk00 (ファイル識別情報の登録処理)

## 【4】 ログ表示時不備の修正

ログ表示(u@ftplog コマンド実行)時、\$TOOLS\_PATH/LOG ディレクトリ配下に ファイル名が 17 文字以上のファイルが存在するとプログラム内の領域を壊す可能性のある不具合に対応いたしました。

また、\$TOOLS\_PATH/LOG/slogs ファイルに write 権限のパーミッションがない場合、メモリエラーが発生する可能性のある不具合にも対応いたしました。